
黒き悪魔の物語

ジェスター = アーカム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒き悪魔の物語

【Nコード】

N9202S

【作者名】

ジェスター＝アーカム

【あらすじ】

伝説の魔剣士のDNAを用いて作り出された悪魔、『ボリス』はどのように生きていくのか？黒き悪魔の物語、始まります。

キャラ設定（前書き）

この小説にはダンテやバージル等は登場しません。
それに、キャラ崩壊を十分に招く可能性があります。
それが嫌な方は御引き返してください。

キャラ設定

ボリス

伝説の魔剣士のDNA（正確には、その息子のダントの。どう見つけたかは不明）を用いて時空管理局によって生み出された悪魔。名前はフェイトにつけられた。

見た目

銀髪で青目、髪は腰あたりまで伸ばしている。

能力

- ・DMCシリーズのすべてのアイテム（バイタルスター等）を、『悪魔の血（つまり自分の血）』と魔力を使い、生み出すことができる。
- ・他はゲーム（2以外。理由？あんなんだンテじゃねえ）のダンテやバージルと基本は同じ。
たまに能力を改造するかもしれませんが。
- ・ただの魔人化はDMC3のダンテやバージルの黒ver

デバイス

- ・プラウド・ソウル

待機状態はDMC3のダンテのアミュレットの形
バリアジャケットは黒いロングコート

（まあ適当にダンテの服を黒くした感じで）

Dフォーム：見た目はまんま『リベリオン』

Vフォーム：見た目はまんま『閻魔刀』
やまと

?フォーム：分かる人には分かるのでは？

キャラ設定（後書き）

初めまして、ジエスターIIアーカムです。
出来るだけあきらめないよう頑張ります。

何分、初心者ですので可笑しな所や誤字、脱字が目立つと思います。
その時は優しく教えていただいたり、アドバイスなどをいただければ
嬉しいです。

では、これからよろしく願います。

プロローグ

ここはどこだ？

少年は液体の入っているカプセルの中に浮かんでいた。
不思議にも息苦しくはならない。

なんでこんな所にいるんだ？

少年は誰もが思うことを考えた。

いつたい僕は何なんだ？

そして普通は考えないであろうことを思った、
いやある意味当然のことかもしれない。
何せ少年の記憶が始まったのはこの時なのだから。
その時、液体が引きカプセルが開いた。

「コードPS - 0895、反応有りました！」

カプセルの並ぶ部屋に一人の研究員の声が響く。

「何！そのカプセルを今すぐ開けろ！！」

この研究所のリーダーであろう人物が先よりも一際大きな声で指示を出す。

そしてカプセルが開きその中から赤い宝石の付いた銀色のネックレス

入を

首にかけ、長い銀色の髪をした一人の少年が出てくる。

「やあ、気分はどうだい？」

彼が少年に声をかけた。

「………あなたは？」

少年が彼に問いかける。

「私はこの研究所の所長だ。」

「所長？」

「ああ、そして君の生みの親でもある。」

所長は少年の問いに答えた。

「……僕はいつたい……」

「きみは時空管理局の命で作りに出された悪魔さ。」

「悪魔？」

「そう、伝説の魔剣士のDNA（実際にはその息子のだが）
を用いて作り出された、管理局の生物兵器さ。」

「兵……器？」

「そう、きみはただの道具なのだよ。」

「……」

少年はただの道具と言われ声も出ない。
いや、何か少年の様子がおかしい。

「！所長、コードPS-0895からとてつもない魔力が……！」

「何!!」

そう、少年には怒りが湧いていたのだ、それも無意識のうちに魔力を、とても強大な魔力を発するほどに。

僕が兵器？何を言っているんだ？

彼の中には怒りが湧いてきた。

そして怒りで彼は自分を制御できなくなった。

その時、自分の周りが急に光だし、その光が収まった後、

彼は黒い服を着ていた、そして手には巨大な生物的な大剣が握られていた。

お前たちを・・・許さない・・・

「な、勝手にデバイスが起動したと?！」

急にデバイスが起動したのだ、それも一度も起動したことのないデバイスがだ。

その時、

「許さない・・・」

「何？」

少年は大剣を上にあげながら呟いた。

そして、

「絶対に・・・許さない!!!!」

最後の言葉とともに、引き金を引いてしまった。

その瞬間、少年を中心に紫色の魔力の奔流が広がった。

それは軽く研究所を飲み込み周囲1キロ程も飲み込んでいった。

それが収まったのち残っていたのは、少年が倒れているのみであった。

そして少年の周りが歪み始め、彼を飲み込んでしまった。

それから周囲を支配していたのは、静寂であった・・・

プロローグ（後書き）

こんにちは、ジェスターⅡアーカムです。

「こんにちは、主人公のボリスです！

って、まだ名前出てないのに名乗っちゃっていいの？
それにいきなり出ちゃってるし・・・あれが。」

いいんだよ。気にするな、どうせ後で出るんだから。

「うわ、適当・・・」

どうでしたか？こんな駄文ですがよろしく願いします。
これで興味を抱いていただければ嬉しいです。

「こんな作者ですが、どうかよろしく願いします。」

では、黒き悪魔の物語、

「また次回にお会いしましょう。」

第1話（前書き）

遅くなって、すみません！！

いきなり書けないって何なんだろう。

第1話

町から少し離れた森

「ジュエルシード・・・まず一つ・・・」

そこに少女はいた。

「さすがはフェイト、こんなの朝飯前だよ。」

驚いたことに少女・フェイトの横にいた赤毛のオオカミが声を発した。

「そうでもないよ、アルフがいなかったらもつと大変だよ。」

フェイトはオオカミ・アルフに一人では無理だよといった。

その時、近くで空間が歪みだした。

二人（？）はすぐに何が来ても大丈夫なように身構えた。

その空間の歪みから出てきたのは、一人の少年だった。

「誰?!」

「・・・・・・」

「なんか言ったらどうだい!!!」

その時、出てきた少年は崩れ落ちた。

「!!!大丈夫?!」

「ちょ、ちよつとフェイト!!!」

フェイトは倒れた少年が心配になり駆け寄り、アルフも追うように近寄った。

「気絶してる・・・運ぶよアルフ。」

「へ?!でもこんな得体のしれないやつ・・・」

アルフはすぐに分かった。

運ぶ、即ち今拠点にしている部屋へ連れて行くということだ。

「でも目の前で倒れたんだよ、放っておけないよ。」

「でも、もしそいつが襲ってきたらどうすんだい?」

「大丈夫、私強いし、アルフもいるから。」

「・・・フェイトがそう言うんだったら、従うよ。」

アルフは渋々といった感じで少年を運び出した。

「・・・ここは?・・・」

少年はどこかの部屋で目を覚ました。

(確かぼくは研究所で・・・) ガチャ

そう考えているとき、ドアの開く音がした。少年がその方向を見ると金髪の少女がいた。

「起きた?」

「・・・君は?」

少年は少女に訊ねる。

「私はフェイト、フェイト・テストロッサ。」

「・・・君も、ぼくの事を、道具として扱う気？」

「へ？」

少女・フェイトは少年の突然の問いに困惑した。
誰だって知らない人にそんなことを聞かれれば、
困惑するのは当たり前だ。

「なんで・・・君をそんな扱いするの？」

「それは・・・」

少年は自分の生れについて説明をした。

「あく・・・ま？」

「そうです。」

「「・・・」」

部屋にしばしの沈黙が流れる。

「看病、ありがとうございました。」

そう言って少年はフェイトの横を通り、
部屋を出ようとした。

「・・・待って！」

その少年をフェイトは呼び止めた。
呼び止めてしまった。

「えっと・・・あの・・・」

フェイトは何故少年を呼び止めたのか自分でも分らなかった。
ただ、そうしなければいけない気がした。

「なんですか？」

「家族・・・いないんだよね。」

「そうですけど。」

少年はそう聞いてきたフェイトに首を傾げた。

「じゃあ・・・私が家族になってあげる。」

第1話（後書き）

とても遅くなってしまった・・・

ボ「遅かったね。」

やっぱり無計画は駄目だな。

ボ「それは最低というものじゃ・・・」

言っな！！自覚はしてる！！

ボ「・・・はあ・・・」

こんなので先やって行けるの？」

頑張って見せる！・・・はず・・・

ボ「最後のがとても心配なんだけど・・・」

では、これからも（何とか）頑張っていきますので、
「「よろしく願いします！」」「

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9202s/>

黒き悪魔の物語

2011年10月8日11時00分発行